

東京農業大学の沿革

榎本武揚と横井時敬

創設者は、明治の英傑榎本武揚だ。明治政府で通信相、農商務相、文相、外相、などの要職を歴任した榎本は、明治24（1891）年、東京に「私立育英黌」を設立した。その農業科が東京農学校、東京高等農学校と名を替えつつ、拡充の歴史を歩み、今日の東京農業大学となる。

東京農学校時代の明治28年、評議員として参画したのが、明治農学の第一人者横井時敬だった。「人物を畑に還す」「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」と唱えて、「実学」による教育の礎を築き、東京農業大学の初代学長を務めた。本学の「生みの親」は榎本、「育ての親」は横井である。

傘下に東京情報大学

東京農業大学は、農学部、応用生物科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部、生物産業学部、短期大学部の6学部22学科からなり、大学院は2研究科19専攻体制が整っている。世田谷、厚木、オホーツク（北海道・網走）の3キャンパスに学生・院生ら約13,000人が学んでいる。

学校法人東京農業大学の傘下に、東京情報大学（千葉）がある。総合情報学部1学科、大学院1研究科で、学生・院生は約1,900人。傘下には、他に併設校として農大一高／中等部（東京）、同二高（群馬）、同三高／附属中学（埼玉）がある。

学校法人東京農業大学戦略室

謹んで地震災害の

お見舞いを申し上げます

このたびの熊本地震により被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

一日も早く復旧されますようお祈りいたします。

本法人はこの未曾有の災害からの復興に最大の努力を惜しまない覚悟です。

学校法人 東京農業大学